

全国(千葉) 体育・保健体育ネットワーク研究会



千葉県開催 <ピーナッツラウンド>
子どもの体力向上指導者養成研修をシェアする
平成 27 年度 5 月 22 日(金)17:00~18:30 千葉市立弁天小学校

子どもの体力向上指導者養成研修東部ブロックは、千葉市で行われました。研修終了後、講師1・2の先生方や受講者の方々を中心に「ピーナッツラウンド」を開催することができました。当日は平日金曜日の17:00スタートというお忙しい中のスタートでしたが、千葉県や関東近県の先生方を中心に、新潟、岩手、宮城からも参加いただき、研修の報告を聞きながら熱く議論を重ねていただきました。

1 はじめに 座長:佐藤 豊教授(鹿屋体育大学)



九州体育・保健体育ネットワーク研究会、北海道・東北やその他の地域の体育・保健体育ネットワーク研究会の活動及びその趣旨について説明いただきながら、研究会の HP や今後のスケジュール等を紹介いただきました。過去の実施内容やその報告書も HP に掲載してあります。会員登録されたい方は、最寄りの研究会事務局までご連絡ください。

2 平成 27 年度子供の体力向上指導者養成研修(東部ブロック)報告

○幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくりを図る部会

佐々木美奈子教頭(宮城県大崎市立下伊場野小学校)



佐々木先生には、子どもの体力向上のためには、小学校・中学校・高等学校の連携はもちろんのこと、幼稚園や保育園とも積極的に連携していく必要があることをお話していただきました。部会では、様々な遊びを中心とした実技とともに、保育のプロセスとして幼児の姿からねらいや内容を設定し、環境を構成することの大切さや基礎的な動きの習得と動きの「洗練化」について報告をいただきました。

○段階的な指導をとおして運動の楽しさを味あわせる部会(水中での動きをつくるコース)
大越正大准教授(東海大学)・大庭昌昭准教授(新潟大学)



東部ブロックの講師の大越先生と西部ブロックの講師の大庭先生にご報告をいただきました。

大越先生には、スライドを使用しながら実技の様子を紹介していただきました。体ほぐしの要素を取り入れた主運動につながる準備運動や水慣れの活動、呼吸法の習得、遊びに夢中になりながら水の特性がわかるように工夫された教材、水中における補助の仕方、背浮きやけのびを用いた指導法、ビート板でキャッチアップしながらのクロール等を見せていただきました。

大庭先生は、西部ブロックの担当でしたが、ピーナツラウンドに参加いただき、教えるために理屈のことをお話しいただきました。泳ぐためには、浮く・進む・呼吸が組み合わされることが必要ですが、自然に浮いてくる、自然に進んでしまう、吐いたら自然に入ってくるようにおこなうことが大切であると同時に、動きづくりでは平泳ぎを中心に行われたことをお話ししていただきました。

3 全体協議



報告後の全体協議では、高い技能の児童・生徒がいたときの授業のあり方、幼少期からの連携した体力向上のあり方等を中心にディスカッションが進みました。特に幼少期では、自由に遊ばせながらも、放任ではなくねらいとする「動き」が発生するように準備する必要があることが確認されました。また、正課で行う体育・教材としての剣道と運動部活動や競技としての剣道の違いが意識されたことも話題にあがりました。

体づくり運動では、伝達される内容はアラカルト的になりがちで、模擬授業においてもマイプログラムを作るイメージがなかなか共有できないことが指摘されました。体づくり運動領域に限ったことではありませんが、指導と評価の機会を考えながら、ねらいを達成する授業になっているかを振り返ることが重要なことも改めて確認されました。小中高のカリキュラムをどうつなげていくか、アウトカムベースでの授業づくりが求められていること等を佐藤先生にまとめていただきました。

翌日が運動会開催という時期でもあり、通常のラウンドよりも短い時間であわただしくお帰りになる方もいらっしゃるころでしたが、非常に密度の濃い時間を過ごすことができました。講師の先生方の熱心な報告にはもっと耳を傾けていたところでしたが、時間の制約もあり、何かの機会にもう一度登壇願いたいところです。初めての参加の先生方もいらっしゃるなかで、このネットワークを大切に、日々の授業を充実させるための授業づくり・教材開発につながる情報交換を続けていければと願っております。お忙しいところお集まりいただきありがとうございました。ご協力いただいた弁天小学校、千葉県教育委員会の皆様にも心より感謝申し上げます。【報告:岩手・清水】